

トピックス

平成26年5月11日(日)10:00~12:00

くまとりにぎわい観光協会 総会が、煉瓦館で開催されました。

・第1部 総会

・第2部 講演会

講師：京都大学原子炉実験所 川端祐司教授

「くまとり」は観光地になり得るか？

「本当の日本はここにある」

第1部は、会長、町長の挨拶、前年度の事業・決算報告ののち、今年度の運営方針・予算案等が決議されました。



第2部は、京都大学原子炉実験所：川端祐司教授の実体験を基にした外国人を招く観光施策、「くまとり」は観光地になり得るか？「本当の日本はここにある」の講演をいただきました。



講演の内容は、外国人観光客をターゲットに、

東京、京都等のいわゆる観光地（客用の座敷）を見学した後、閑空からの帰路の前に泉州地区で普通の日本文化（生活感のある居間）を体験し感じてもらうというもの。

外国人観光客向けのツアーは、名所旧跡の観光、料亭レストランでの食事、お土産屋等々の一定のルートに乗ったものであって、もう一步踏み込んだ日常の日本文化の経験はあまりしない。

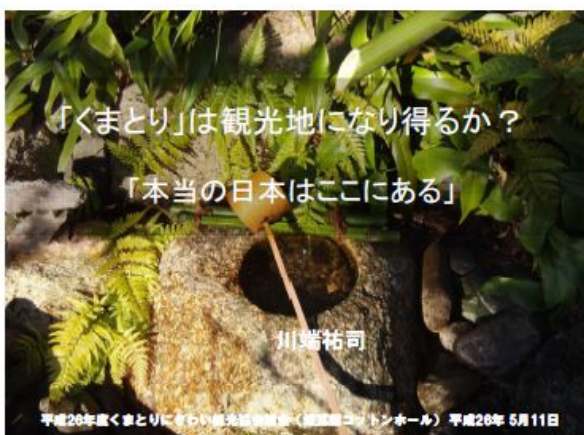
熊取（及び泉州地区）は、いわゆる従来型の観光地・観光資源は少ないが、閑空に近く（交通至便で）、文化的には豊かである。

茶道、華道、和装、祭り(だんじり)、寺院(座禅、読経体験)、古民家、農業体験 等々例えば、中家住宅で、華道、茶道、お好み焼きを食べる経験だけでも、外国人にとっては魅力的。

このように豊かな文化・地域資源を活かした、外国人観光客が日本の日常を楽しめるニューツーリズムを目指したらどうか？というもの。

6年前に熊取で開催された国際中性子シンポジウムの際、外国人の方たちに、日本文化観光として、お茶会、お花を活けたが、大変好評であったとのこと。

まだまだ思いつきレベルではあるが、地域資源を活かした日本文化観光について、これからの検討の一助として戴きたいとのこと、大変参考になる含蓄のあるご提案でした。



くまとりにおける「文化観光」活動例(1)

国際中性子シンポジウム参加者に
平成20年2月17日：韓国側8名、



くまとりにおける「文化観光」活動例(2)

International Tipical
Meeting on Neutron
Radiography
平成20年9月16日

